



## ジュニア大使友情使節団

“パラオ班”5回目の実施

「ジュニア大使友情使節団」は、子供たちが国際理解を深め、世界の中の日本について学び、平和を希求する人に育てて欲しいという願いから1985年に創始され、平成30年度で34年目を迎える。

夏休みと春休みを中心に実施し、この3月には5回目となる「パラオ班」を派遣した。“自然環境と平和”をテーマに、一般家庭でのホームステイや学校での交流、ペリリュー島やカーブ島での平和・自然学習、さらには日本国大使館訪問、国会議事堂見学など、盛だくさんのプログラムだった。ここに参加した団員に感想を語ってもらう。

やまもと りこ  
山本 莉子

新潟県・刈羽中学校2年

私はこの海外派遣のホームステイで学んだことが二つあります。

一つ目は、家具の違いです。トイレ

や冷蔵庫、ベッドなどはほとんど日本と変わりませんでした。しかし、リビングや部屋にある照明は違いました。日本では照明だけのものが多いですが、パラオでは、照明にプロペラがついていました。暑いパラオでも涼しくなるようにしているそうです。

二つ目は、時計です。私がホームステイをした家には時計が一つもありませんでした。日本国大使館の方に聞くと、パラオは日本と違い、常夏で太陽や月、星の位置が年中、変わりません。なので太陽や月、星の位置だけでだいたいの時間がわかるそうです。

パラオの人に折りづるや日本の文化を教えることができてよかったです。また行く機会があれば、パラオに行きたいです。

なかやま たいし  
中山 大志

東京都・谷中小学校6年

ぼくが一番印象に残ったのは、2日目に行ったペリリュー島での平和学習です。ペリリュー島は太平洋戦争で日本とアメリカの激しい戦いがあった場所です。そのため、ペリリュー島には日本の戦車などがたくさんあります。

その中で特に印象に残ったのは、日本軍の総司令部です。総司令部にはアメリカから落とされた爆弾であいた穴や、アメリカから撃たれた銃弾の跡が生々しく残っていました。

ぼくは総司令部を見て、戦争の悲さ

んさを体で感じることができました。僕は、広島爆弾ドームも行ったことありますが、その時とは違い総司令部は触れることもできるので、また違ったことを思うこともできました。このように、戦争の傷跡を生で見られ触れることができることは貴重なので色々な人に戦争の悲しさを伝えたいです。この地球上から争いごとをなくし、平和な世の中にしたいです。

きみしま しゅう  
君島 周

京都府・京都大学附属京都中学校2年

僕は、ホームステイでホストファミリーにとっても優しくしてもらいました。僕と同じ年の子がいて、その子とチェスをしました。その家では、夜の8時になったら水が止まるそうです。現地の人たちにとっては不便ではなさそうでしたが、僕にとっては不便でした。それは日本の整備された環境になれてしまっているからだと思います。

在パラオ日本国大使館でもらった資料によると、パラオのように整備が完全ではない国は、全世界で196ヵ国中146ヵ国にもなるそうです。だからもっと支援をしていかなければならないと強く感じました。

僕は今まで、これから何をしたいかあまり考えていませんでしたが、少しやりたいことが分かった気がします。自分の進路について考えるときにこの経験を活かせられたらいいと思います。

## 世界万華鏡

国際交流・コーディネーター

おやま まゆみ  
小山 麻由実

シリーズ2 ペリト・モレノ氷河

2015年3月31日から約3年間弱、夫と二人で世界一周新婚旅行に出かけました。そのときどきの思いをつづっています。今回はアルゼンチンのペリト・モレノ氷河をご紹介します。



2017年1月7日、南米大陸最南端のアルゼンチンの町、ウシュアイアから南米大陸北上を始め、チリのプンタアレーナス、プエルトナタレスを経由し、同月18日、再びアルゼンチンに入国、エルカラファテに到着しました。

南米大陸の南側、アルゼンチンとチリにまたがる地域はパタゴニアと呼ばれ、世界でもトップクラスの雄大な自然が広がる大変魅力的な地域です。

エルカラファテという町を訪れた理由は、世界遺産でもある、ペリト・モレノ氷河を見て、さらにその氷河の上をトレッキングするためです。

町にあるツアー会社で前日にツアーを予約し、翌日の朝、いざ出発。氷河のある、ロス・グラシアレス国立公園までの道中も雄大な山々が広がる美しいパタゴニア地方の景色が続きます。何度も「きれい」と思わず声がでてしまう絶景です。しばらく走ると、公園の入り口に到着。ここからは湖と雪を

かぶった山が広がり、本当に美しいとしか言えません。



さらに走ると、バスの中が少しざわつききました。氷河が見えてきたのです。まだまだ遠いはずなのに、バスから見てもその巨大さが伝わります。

バスを降り、いよいよ氷河へ近づくと、まさに、息を飲む絶景。凄まじい迫力です。写真だけでは伝わりにくいですが、この氷河、約250㎥をおおっており、一番厚いところで700mもあるというのです。壮大な美しさにただただ感動です。

氷河の青の色は美しく、表面は永遠に続く不思議な模様みたいでした。この絶景を見ながら、宿で朝にぎってきたツナマヨおにぎりです。至福のときでした。

のんびり景色を堪能していると、ゴォーと凄まじい音がしました。中央の少し奥で氷河が煙を上げてゆっくり

と崩れ落ちていくのです。自然の素晴らしさにもう言葉がでません。

しかしこれだけでは終わりません。そこから船に乗り、この氷河の奥に回り込み、氷河トレッキングです。自前の靴にアイゼンを付け、いざ氷の世界へ。ザクザクと氷河の山の中を上ったり下ったり。クレパスをまたいでみたり。道中「すごい」「キレイ」「カッコいい」と興奮が止まりませんでした。



最後にガイドがおもむろに氷河を削り、グラスの中へ。そしてウィスキーを注ぎ、天然のオンザロック。絶品でした。アルゼンチンのペリト・モレノ氷河、これでもか、と自然の美しさを実感できる素晴らしい場所でした。

平成30年5月17日発行  
一般社団法人 国際フレンドシップ協会  
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12  
麻布台ロイヤルプラザ703  
発行責任者：及川 伊佐子  
編集：事務局 03(3582)3021  
印刷：音和堂印刷株式会社